

会 議 要 旨 書

会議名	第4期三鷹市生涯学習審議会第5回定例会 第33期三鷹市社会教育委員会第5回定例会
日 時	令和6年7月18日（木） 18時30分～20時40分
場 所	三鷹市生涯学習センターホール
出席委員 （18人）	田中雅文 矢崎喜美子 齋藤智志 廣瀬圭子 青木玲子 生田美秋 山口和昭 間部豊 塚田明美 永田和昭 丸岡千賀子 進邦徹夫 櫻井勉 藤橋初美 雨谷由夏 加藤綾子 井上翔太 千田妙子
欠席委員 （2人）	小林七子 東山昌央
行政職員 （8人）	スポーツと文化部長 大朝摂子 スポーツと文化部調整担当部長 平山寛 教育部調整担当部長・総務課長 齊藤真 生涯学習課長 八木隆 三鷹市立図書館長 大地好行 教育政策推進室長 越政樹 生涯学習課主査 中西崇郎 同主任 齊藤満里奈
会議の公開・ 非公開	公開
傍聴人数	2人
1 委嘱状交付 スポーツと文化部長より、新任委員へ委嘱状の交付を行った。 2 開会 （事務局より委員の出席状況、傍聴者の有無、会議要旨の公開について報告し、配付資料の確認を行った。） 3 議題 （1）社会教育関係団体補助金の支出について（三鷹市公立学校PTA連合会） 【事務局】社会教育関係団体補助金の支出については、社会教育法第13条に定められている、「社会教育関係団体に対し補助金を交付しようとする場合には、社会教育委員の会議の意見を聴いて行わなければならない」という規定に基づき、社会教育委員の皆様にご意見をお伺いするものである。補助金の詳細については、担当課よりご説明させていただく。 （教育政策推進室長より、説明を行った。） ～意見なし～ （2）自主グループ講師派遣事業の講師等変更について （事務局より、説明を行った。）	

【会長】簡易な変更であれば、私と事務局で判断して軽微な変更として対応する。今回のように、講師や講座名、講座内容すべてが変更となるような場合には、委員の皆様へご意見をお伺いすることとしている。

ご意見やご質問はあるか。

【委員】申請期間は、どのようになっているのか。

【事務局】3月初旬から4月初旬まで申請を受け付けている。

【委員】申請の段階で、実施に向けて講師の方と調整をしているのか。

【事務局】申請の段階で講師に依頼している団体もあるし、講師派遣が決定してから講師に依頼する団体もある。

【委員】この団体は、主として何を目的にしている団体なのか。

【事務局】シニア向けに日常的な様々な課題等の解決に向け活動している団体である。

【委員】団体に属している人のニーズに合わせて、フレキシブルに変更するというのは悪いことではないし、我々が三鷹の団体が具体的に何をやっているのかということを知る機会にもなると思う。

【会長】審議会開催の時期により、4月の審議会で確認しないといけないのが現状であり、そのため、年度の途中で講師の都合が悪くなったり、様々な事情で変わったりということが時々起こるという理解でよろしいか。

【事務局】その通りである。また、実際に活動していく中で、会員のニーズに合わせて変更する団体もある。

(3) 三鷹市生涯学習プラン 2027 について

事務局より三鷹市生涯学習プラン 2027（骨格案）について、説明を行った。

【会長】前回、皆様からいただいたご意見を踏まえながら、さらに具体的な細かいところも書き込まれている。7 ページの市民の意見やニーズ、審議会からの意見書など、あらゆるものを総合的に踏まえながら作っていただいているので、作り方のプロセスはしっかりしたものだと思う。

11 ページの下にあるウェルビーイングの説明について、まず世界保健機関憲章の中での提示があり、次にいきなり本プランにおける捉え方となっている。文科省の第4期教育振興基本計画の中で、日本型のウェルビーイングの考え方について明記されていて、その考え方を受けて、三鷹市ではこのように捉えるという書き方にしたほうがよい。12 ページの図について、真ん中に「個人の幸福」という言葉を入れてもらった。これがないと、学んだ成果がすべて社会のために役立つだけで、自分のために役立たないというようなイメージを持たれてしまう可能性があるためである。しかし、ここに「ウェルビーイング」という言葉も入れてしまうと、先ほど持続可能な社会もウェルビーイングの一環だと言っているため、ここで社会レベルもこの中に入るとよいのかどうか議論の余地があると思うので、何かご意見があればお聞かせいただきたい。

【委員】第5次三鷹市基本計画（以下「基本計画」という。）について、施策の達成度をはかる指標 KGI が表記されている。第7部の子ども・若者・子育て支援における「子育て世帯が暮らしやすいまちと感じている市民の割合」の KGI は 58.5%、第8部のスポーツにおける「週

1 回以上スポーツ活動を行っている市民の割合」のK G I は 57.5%、第 9 部のコミュニティ創生と参加と協働における「地域コミュニティや地域活動に参加したいと感じている市民の割合」は 23.6%、それ以外については 70～80%のものが多く、我々に関わる部分の数値が低いと感じた。これは、私達が進めようとしているプログラムが市民のニーズと合っていないのか、あるいはプログラムの中で十分に実現できていないのか、何が原因でこの数字になっているのか。

【スポーツと文化部長】K G I について、もともと取っている指標がそれぞれ違うので、単純に比較はできないという前提でお話させていただく。取っている指標が違うので、ある分野における 8 割という数値と、違う分野における 5 割という数値について、必ずしも 8 割がよくて 5 割が悪いということではない。基本計画の第 8 部のK G I を、生涯学習プランのK G I に設定しており、そのK G I を達成するためにK P I を設定している。市民満足度調査に基づいて数値を取っているの、他市との比較、もしくは東京都の同様の数値との比較をベースにしつつ、この数値を少しずつ上げていくことを目指すというのが、生涯学習プランに課せられているミッションだろうと思う。これまでの生涯学習プランでは、何を目指していて、何をしたら目標に近づいていくのかがわかりづらい記載だったところもあるので、今回はこのK G I の数値を上げていくこと、そして数値を上げていくためには、例えば参加している人数が上がっていけばいいのかとか、そういうことを論理性をもってプランに盛り込みたいと思う。

【委員】行政計画には、市民のニーズに応えるということと、これからの社会上必要なことを盛り込まないといけない。審議会としては、市民のニーズがどこにあって、この数字がどのようにしたら達成できるのかを常に意識しながら、プランを作っていかなければいけないと思う。

【会長】指標の取り方を丁寧に考えていくことは、大事だと思う。

【生涯学習課長】資料 3 の 7 ページに、市民満足度調査の結果を掲載しているので、この結果も踏まえて、生涯学習活動をされる方にとって最適な対応をしていきたいと考えている。

【委員】今回のプランは、これまでのプランとどのように違うのか。

【会長】プランにおける本審議会の役割は、諮問答申という形なのか。

【スポーツと文化部長】諮問答申という形である。前期の審議会において意見書をご提出いただき、それを基に基本計画や個別計画の策定作業を行っている。

これまで、どのようにプランを評価したらよいかわからないというご意見をいただいていたので、今回のプランでは、各施策の数値目標や指標になるものとしてK G I やK P I を設定しているということが、これまでのプランとは違うところである。資料 3 の 15 ページの表がとても重要な点だと考えている。そのため、審議会の委員の皆様にも、本当にこれで検証ができるのか、生涯学習が進んだという数値が取れているのかをご議論いただきたい。

また、子どもの頃から始める学び、子どもの生涯学習というキーワードを明記したのも、今回が初めてだと思う。

【会長】このプランをもっとユニークにするには、どのような視点が重要なのかなど、いろいろご意見を言っていただければと思う。

【委員】「人生 100 年時代」や「S o c i e t y 5 . 0」、「新しい生活様式」などの新しい状況において、生涯学習がどう変わっていくのかを、できるだけ具体的に示していかなければな

らないが、それが見えにくいように感じる。

【委員】KGIやKPIについて、用語の説明を入れていただいて、今回のプランでは評価ができるようにこのような数値化を試みているという一文があれば、方針の前段としてよいと思う。

【委員】7ページにある市民満足度調査について、生涯学習活動を行わない理由ではなく、「どのようなきっかけがあったら行かうか」という質問にしたほうが、今まで興味がなかった方もやってみようとなると思う。そうすることで、それに向けて策を打ったり、それを広めるためにSNSを活用したり、プラットフォームが決まってくるのかなと感じた。

生涯学習活動を行いたい理由については、アンケートを取っているのか。

【生涯学習課長】「今後行いたい生涯学習活動」という質問事項があり、趣味的なもの、教養的なもの、家庭生活に役立つ技術に関することなどの回答が多かった。

【会長】学習活動を行うきっかけには、内容と方法がある。内容については「今後行いたい生涯学習活動」という質問でよいと思うが、方法についての質問事項もあるとよいと思う。「生涯学習活動を行わない理由」から推測したり、これまでに実施した事業で把握している範囲で推測したりするなど、これまでの結果と経験から少し考えていければと思う。今のご意見については、今後アンケートを行う時の参考にしていただきたい。

【委員】10ページに「新しい生活様式」におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）の活用とあるが、DXは技術だけでなく技術を使って社会全体や制度、組織も変えていくというものなので、「活用」という表現は違う気がする。また、「オンラインやハイブリット方式などDXを活用した」とあるが、ここは「DX」ではなく「ICT」のほうがよいと思う。

【委員】10ページに(1)「持続可能な幸福と社会」の実現＝「ウェルビーイング」の実現となっているが、ウェルビーイングは個人の精神的、身体的、社会的な幸福な状態を言い、持続可能な社会はSDGsのことを言うと思う。このウェルビーイングを実現するために改善しなければいけない17の具体的な目標というのがSDGsであるので、この2つをイコールで結ぶのは違うのではないか。

(3)「新しい生活様式」におけるDXとあるが、新しい生活様式というのは、コロナ禍において一定の距離をとるとか、うがいをするとかそういう生活習慣の中から生まれた言葉なので、DXではなく、むしろ「Society 5.0」のことを言っているのかと思う。AIの進化した時代において、行政サービスも変わっていく。そこで、市民がデジタル難民にならないために、何をしなければいけないかということをおうとしていると思うが、ここで新しい生活様式というコロナ禍にあった言葉というのを持ってきているのが、理解できない。

【会長】持続可能な社会について、文科省の捉え方がとても広くて、恐らく持続可能性とつなげた表現をしているのではないかと思うので、確認していただきたい。(1)の言葉を少しウェルビーイングを前面に出すということで、そこにおける持続可能性の言葉の使い方をもう一回検討しながらということよろしいか。

(3)については、DXというのは今のひとつの流れであるが、コロナになってからニーズとしてとても膨れ上がった。もう一つシーズとしては、「Society 5.0」の流れの中からもいろいろな可能性が生まれているので活用するという両面があると思う。ポイントはDXだ

と思うので、なぜDXかということを使う時に、コロナだけではなくて「Society 5.0」とか、世の中の情報化の流れとか、そういうものを入れて総合的に書けばよいのではないかと思うので、表現を工夫していただきたい。

【副会長】「コミュニティ・スクール」や「スクール・コミュニティ」に関しては、学校教育での視点と生涯学習での視点があると思う。前期における意見書では、学校教育の視点から、学校3部制における第2部の問題点は部活動であり、もっとゆる活などそのような視点で部活動の在り方そのものを考えていくような、そういう考え方を導入してほしいという意見を述べさせていただいた。それを、生涯学習の視点から考えると、大人と子どもの学びの場、学び合いの場となり、そこに大人がどのように参加するかということで、部活動の在り方も緩やかに考えられていくのだということになる。大人というのは教員ではなく、地域の大人の人たちであり、地域の大人が参加することで、第2部の学校教育の姿にも生涯学習という視点が入り、変わっていく可能性があると感じた。学校3部制について、まだ具体的な活動は始まっていないが、生涯学習においてとても重要な視点であり、プランの中でも重要な問題として押さえておくべきものだと思う。プランの中で、学校3部制を進めていこうとする学校教育での未来像と、生涯学習での未来像というものが合致していく、緩やかな表現になって盛り込まれていると感じた。

【委員】7ページの市民満足度調査について、きっかけがないという理由と、学校や仕事で忙しくて時間がないという理由、子育てや介護で忙しくて時間がないという理由は、それぞれ次元が違う理由だと思う。つまり、複合的な理由が生涯学習の取り組みを阻んでいる。そうだとすると、三鷹市としてはどの層の参加率が上がれば成功とみなすのか。あえてターゲットを絞るのも一つだと思う。今回のプランは4年間の計画とのことで、すべての層に対して全部対応するというのは、期間的に短いと思うので、何かに絞って、とりわけその数字が上がれば成功とみなすというような考え方をすることである。ターゲットを絞るのか、それとも全体的に少しずつ底上げを目指すのかで、かなり動き方も違ってくるし、評価の基準も違ってくると思う。

【生涯学習課長】生涯学習活動を行わない理由について、「きっかけがない」と回答したのは20代が一番多く、「学校や仕事で忙しくて時間がない」と回答したのは10代の方が多かった。また、「子育てや介護で忙しくて時間がない」と回答したのは30代の方が多くなっており、理由により世代も違ってくるところもあるので、そういうところも意識しながら、生涯学習活動していただく方のニーズを的確に捉えていくことが必要と考えている。

【スポーツと文化部長】教育委員会で進めている学校3部制について、生涯学習にどのように生かしていくのか、どのように連携していくのかという生涯学習からの視点で記載している。

【会長】生涯学習というのは、概念上、生まれてから亡くなるまでの学びで、そこには学校教育での学びも含まれる。しかし、生涯学習プランの中では主に、学校教育そのものよりは、学校と地域が連携した中での子どもの学びや社会教育的な領域での学びなど、そういうものが主なターゲットになる。子どもの頃からの学びを推進するためには、スクール・コミュニティや学校3部制が関わってくる。そのあたりが、三鷹市の一つの特徴だと思う。

【副会長】12ページの生涯学習プラン2027の目指す将来像のイメージ図は、分かりやすく

よいと思う。

【委員】14 ページの基本施策2(1)ウに、「保育付き講座等の充実」があるが、介護の人が学ぶ機会をサポートするために介護付きという文言も入れていただきたい。

【スポーツと文化部長】市民満足度調査でも、介護で忙しくて時間がないという結果があるので、そのような人への生涯学習の提供についても考えるべきだと思う。介護付きとするのは難しいかもしれないが、介護で忙しい人に向けて、その人が選びやすい、参加しやすい生涯学習のコンテンツを提供できないかという視点で考えていきたい。

【委員】オンラインでもよいので、介護の人も含んでいるというのがわかるような表現ができたらよいと思う。

4つの施策について、「生涯学習の機会の提供～まなびたい～」ではなく「まなびたい～生涯学習の機会の提供～」というように、表題と副題の順番を入れ替えた方が、他の表記との整合性が図られると思う。

【会長】介護で大変な方が学べるようにということなので、基本施策2(1)のどこかにそういう表現を加えるのか、あるいは基本施策4(1)エICTを活用した学びの提供の中に入れるのかなど、検討いただきたい。

【委員】基本施策4(1)エICTを活用した学びの提供、(2)わかりやすい情報の提供というところで、年齢によってわかりやすい情報というのは違うと思う。また、12ページのように図やグラフ、写真などがあるとすごくわかりやすいと感じた。

何をもってわかりやすいとするのか、わかりやすさの基準について、市ではどのように考えているのか。また、SNSのプラットフォームは何なのか。

【スポーツと文化部調整担当部長】審議会や利用者懇談会等において、三鷹市で実施されている生涯学習の講座や教室、イベントについて一覧になっている情報サイト、ホームページとSNS等を連携した形での情報提供ができないかというご意見をいただいている。どのようなプラットフォームを作ることができるのか、検討していかなければいけないと思っている。三鷹市内で実施されているすべての生涯学習関連講座、イベント等の情報の一元化、一覧化に向けてどのような形で提供することができるのか、利用者懇談会では、それぞれ市民が書き込みをするような形での情報のサイトみたいなものを検討してはどうかというようなご意見もいただいている。一方で、市民から直接書き込んでいただいた情報の正確性や信憑性について、市としてどのように責任を持てるのかという課題もあるので、できるだけ視野を広く、どういったところに落ち着けられるのかというところを、審議会の皆様からのご意見をいただく中で検討していければと考えている。

【委員】13ページの基本施策3の中には「みたか地域ポイント」という言葉は出てこないが、14ページの体系図の中では、基本施策3(1)イで突然、「みたか地域ポイント」の活用と出てくるが、なぜか。

【スポーツと文化部長】ボランティア等の育成や地域に還元できる仕組みづくりのために、モチベーションや意識づけのひとつとして、「みたか地域ポイント」を活用していきたいと考えている。13ページの基本施策3にも、「みたか地域ポイント」の記載を追加したい。

【委員】14 ページの基本施策4(2)ア学習情報の提供について、わかりやすい情報の提供のカ

テゴリーの中に学習情報の提供があるのはおかしいので、「学習情報の一元的提供」というような表現にしたほうがよいと思う。

【委員】15 ページの基本施策3の「学校・家庭・地域との連携」について、CSによる教育活動の参加者数があるが、この参加者数は大人の参加者数なのか、それとも教育を受ける子どもの参加者数なのか。基本施策3の「いかしたい」にあるということは、大人の参加者数ということによいのか。もしそうであれば、大人の参加者数と書いた方がよいと思う。

また、CSの活動に関わる大人について、どこまでの範囲を捉えるのか。CS委員だけなのか、それとも青少対や交通対の方々まで入れるのか、さらにはその日だけボランティアできている大人の方まで入れるのかによって、数字が変わってくると思う。今回の主旨でいくと、ボランティアの方々まで入れた方が、実際のところ関わってくれている人たちがどれだけいるのかというところ、また数居が低いところから上がってくるという意味でも広く捉えられるかと思うので、そのあたりがわかりやすくなっているとよりよいと感じた。

【スポーツと文化部長】KPIのところに項目を上げているが、その項目が数字としてきちんと取れるのか、またどういう人たちまで含めた数字として取るのかということはとても重要な視点なので、ぜひご意見をいただければと思う。

【委員】15 ページの基本施策1の「ライフステージ別学習機会の提供」のKPIについて、子ども向け事業の参加者数と働き世代を対象としたリカレント教育の参加者数の2つが挙げられている。10代以下の子ども向けと、30代以上の働き世代の数値になると思うが、20代に関する数値は、どのようにして取ることができるのか。

【スポーツと文化部長】KPIについては、定期的にきちんと取れる数字であり、さらに毎年の実績で経年変化が見られるような数字であることが望ましいと思っている。そのため、すべての項目について、同じような主旨でのKPIを設定することは難しいかもしれないと感じている。定量的な数字が取れないものについては、定性的な考え方になってしまうこともあると思う。定期的に取れる代表的な数字をいくつかKPIに設定して、それを主に評価していくというような構造にできればと考えている。

【副会長】学校・家庭・地域との連携については、CSが大きな役割を担っていると感じている。CSによる教育活動の参加者数がKPIに設定されていることは、CSが三鷹の生涯学習にも影響を及ぼす大きな存在になっているということの評価している項目だと思うが、CSだけでよいのかとも思う。

【スポーツと文化部長】CSがすごく重要な存在であることは間違いないが、学校・家庭・地域との連携についてすべてをCSに委ねるということではない。この項目の中で定期的に取れる数字が、CSによる教育活動の参加者数ではないかということで、KPIに設定している。

【副会長】CSで企画した教育活動以外の活動もあり得ると思うので、「CSや市民による教育活動の参加者数」という表記にしてはどうか。

【スポーツと文化部長】実際にCSだけではなく市民も関わるということはあると思うが、それは個別の事業や取り組みのところで記載できればと考えている。KPIについては、どの数値を取ればよいのかわかりやすくするため、はっきりとした事項を書ければと思う。

【委員】三鷹市で実施する事業の参加者数で、三鷹ネットワーク大学、市民協働センター、コ

コミュニティ・センター等が挙げられているが、どこか1つがリーダーシップをもって、進捗状況を確認して、連携していくという仕組みを作っていくことが大事だと思う。

【委員】14 ページの基本施策4(1)ウの「三鷹まるごと博物館事業の推進」はとても興味深いと感じたので、こういうものをどんどん広げていただけたらと思う。

【委員】地域の小・中学校に通っている子どもたちは、地域とのつながりがあり、そこでの生涯学習が割と長く続けられているが、私立の小・中学校、高校、大学に通っていると、なかなか横のつながりができない人も多いので、そういう方も気軽に学習が続けられて、つながりを作っていけるようなプランにできたらよいと思った。

【委員】いろいろなコミュニティと接してきて、自らやりたいことを見つけられる人に対しては、応援をしてあげればよいと思う。一番手を差し伸べるべきは、子育てや仕事、介護に追われていた人が、ふと学びたくなった時に、そういう情報に円滑にアクセスできて、そのような団体に自然に関わる見学や体験ができるような、そういうことが一番大事だと思う。結果的に、その人がそこで活動に出会って楽しい思いをすることで、Win-Winの関係が広がり、地域の社会教育や生涯学習の充実につながっていくと思う。

広報みたかやホームページを見るが、いろいろな団体が活動していて面白いな、すごいなと思うが、索引機能がない。やりたいことがある時に、何かプラットフォームがあってアクセスできるとよいと思う。

【委員】プラットフォームが増えていることを知らなかったなので、これから勉強していきたい。

【委員】なぜ生涯学習は必要なのか、生涯学習とはどういうものなのか、そこから考えてみたいと思った。

【委員】生涯学習について、少しずつ学んでいきたいと思う。

【委員】「学校3部制」や「みたか地域ポイント」などの用語について、説明があったほうがわかりやすいと思う。

【会長】用語一覧を載せるとよい。

【委員】コロナの影響で、デジタル技術の活用というのがニーズの面でもシーズの面でも急速に進んできたが、現地開催の大切さもあると思う。現場にきて出会った人たちが、情報交換やお互いの感想を言い合っている姿を見ると、やはり現地でやるということはすごく大事だと感じた。SNS等ではなく、そのような情報交換の中で、ひとつのきっかけができて、生涯学習の広がりにつながっていくのではないかなと思う。

【委員】生涯学習の場がとても大事だと思っている。学校3部制の3部にこれから大いに期待している。子どもの頃から始める学びが、社会人になっていったん途切れることもあるが、3部でまた学び直すことができると思っている。

6月に三鷹市芸術文化協会のホームページを立ち上げたので、ぜひご覧いただきたい。

【会長】今後、委員の皆様からご意見がある場合は、いつまでに連絡すればよいか。

【事務局】9月頃までにいただければと思う。

4 報告

(1) 令和6年10月24日(木)、25日(金)に、第66回全国社会教育研究大会茨城大会、第55回関東甲信越静社会教育研究大会茨城大会が開催される。

(2) 令和6年11月16日(土)午後に、府中市で東京都市町村社会教育委員連絡協議会第5ブロック研修会が開催される。

(3) 令和6年12月14日(土)午後1時30分から、町田市で東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会が開催される。

5 その他

今回は、令和6年10月9日(水)午後6時30分から、生涯学習センターで開催予定である。

—閉会—